



その咳、大丈夫ですか??長引く咳には思わぬ病気が潜んでいることがあります!!

●百日咳について(前編)

2018年1月から、5類全数報告(全ての医師が、全ての患者について届出を行う感染症)へ変更になりました。2018年1月からの報告数は熊本市14件、熊本県35件、全国6941件です。(9/30日現在)

◆どんな病気?

1年中みられますが、春から夏に多くみられます。ワクチン接種をした小児や成人では症状が軽く、持続する咳だけの事も多いので診断が見逃されやすいのですが、咳の開始から約3週間ぐらひは菌の排出があり、乳幼児にうつると重症化することもあるため、注意が必要です。

・症状…以下の3つの段階に分けられますが、典型的でない例もあります。発症後、約2～3ヶ月(約100日)ほどで回復します。

①カタル期(約2週間持続) 5～10日(最大3週間程度)の潜伏期間後、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。

②痙咳期(約2～3週間持続) 顔を真っ赤にしてコンコンと激しく発作性に咳込み(スタッカート)、最後にヒューと音を立てて息を吸う発作(ウープ)が特徴的です。嘔吐や無呼吸発作を伴うことがあります。一般に熱は無いか微熱程度です。乳児では重症化することもあり、肺炎、脳症を合併し、特に生後6ヶ月以下では死に至る危険性もあります。

③回復期 激しい発作はなくなりますが、時々忘れた頃に発作性の咳が出ます。

・感染経路…病原体は百日咳菌で、鼻、のど、気道からの分泌物による飛沫感染、および接触感染です。

◆かかったらどうすればいいの?

生後6ヶ月以上にはエリスロマイシン、クラリスロマイシンなどのマクロライド系抗菌剤(特にカタル期で有効) 新生児では肥厚性幽門狭窄症を考慮してアジスロマイシンでの治療が奨められます。適切な治療を行えば、服用開始から5日後には菌はほぼ検出されなくなります。痙咳には鎮咳去痰剤、場合により気管支拡張剤などが使われます。

期 間		平成30年 39週		平成30年 40週	
		9/24～9/30		10/1～10/7(最新)	
疾患名 (百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		1	0.04	0	0.00
RSウイルス感染症		35	2.19	24	1.50
咽頭結膜熱(プール熱)		3	0.19	7	0.44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		14	0.88	8	0.50
感染性胃腸炎		56	3.50	58	3.63
水痘(みずぼうそう)		2	0.13	2	0.13
手足口病		12	0.75	14	0.88
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		11	0.69	9	0.56
ヘルパンギーナ		21	1.31	12	0.75
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	2	0.13
急性出血性結膜炎		1	0.20	1	0.20
流行性角結膜炎(はやり目)		21	4.20	18	3.60
細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		2	0.40	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00